

尾鷲市の公共交通の現況について

1. 鉄道・バスの現状

1) 鉄道

本市には、JR紀勢線が運行しており、市内に5駅が存在しています。普通列車が上下各10本。特急南紀は、尾鷲駅のみに停車し、上下各4本が運行されております。

2) 路線バス

本市内の路線バスとしては、長島線、島勝線、松本線、九鬼線、輪内線の5路線及びふれあいバス八鬼山線が存在する。その他として東京、名古屋、松阪、津行の長距離バスも毎日運行している。乗車人数は、減少傾向にあり、島勝線は生活交通路線バス(1)、長島線は第3種生活路線バス(2)として、松本線、九鬼線、輪内線については廃止路線代替バス(3)として、ふれあいバス八鬼山線は自主運行バス(4)として運行されている。

1 生活交通路線(補助内容: 県(国1/2、県1/2))

下記の要件を満たすバス路線。

- ・複数の市町村にまたがり、キロ程が10km以上
- ・1日当たりの輸送量が15人~150人
- ・1日当たりの運行回数が3回以上

2 第3種生活路線(補助内容: 市町村(県1/2、市町村1/2))

下記の要件を満たすバス路線。

- ・平均乗車密度が5人未満の赤字路線

3 廃止路線代替バス: かつては営業路線(三重交通が営業活動として運行していた路線)であったが、赤字経営となり廃止された路線を市町村が自主的に住民サービスの維持を目的に運行しているバス。運賃設定は三重交通の料金設定に基づき算出している。

4 自主運行バス: 運輸局の許可を受けて市町村が自主的に運行しているバス。

3、4とも補助内容: 市町村(県1/4、市町村3/4)

広域・幹線路線バス(第3種生活路線バス、生活交通路線バス)

- ・長島線・・・長島駅~瀬木山間 8往復/日
- ・島勝線・・・島勝~瀬木山間 8往復/日

廃止路線代替バス

自主運行バスのうち廃止路線代替バスは2路線が運行しており、市が運行事業者に委託し運行している。毎年補助額は年々増加傾向にある。

() 松本線

【運行区間】ジャスコ~紀伊松本間 7往復/日

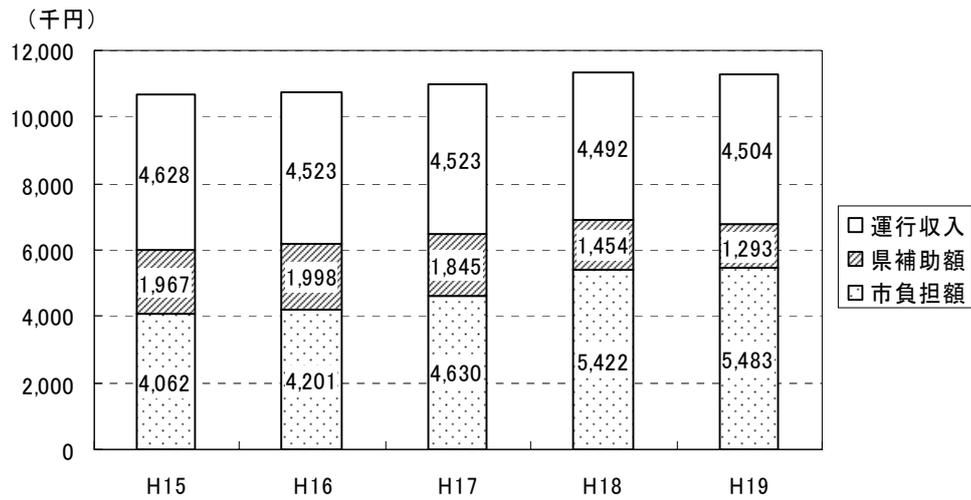


図1 - 1 松本線における収支状況の推移

() 九鬼線

【運行区間】九鬼～早田間 13往復/日

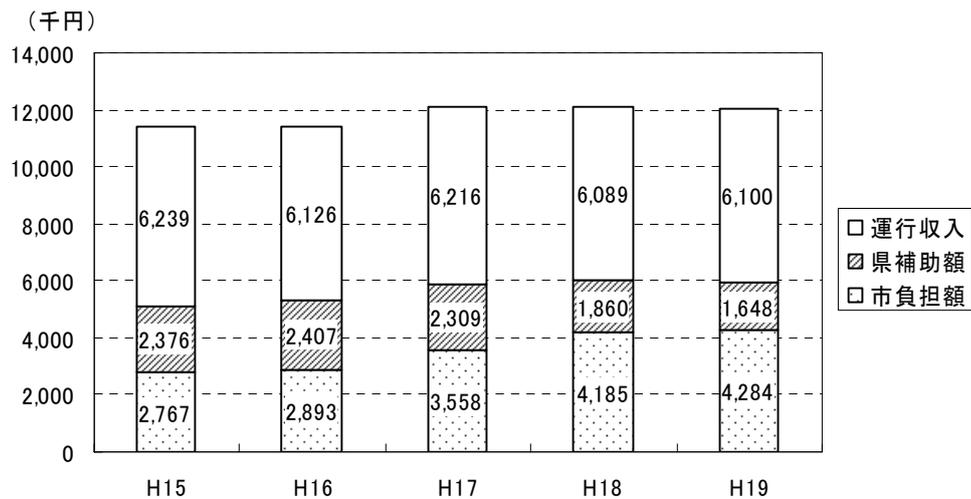


図1 - 2 九鬼線における収支状況の推移

() 輪内線

【運行区間】三木浦～三木里間 9往復/日

三木里～古江間 4往復/日

古江～賀田間 12往復/日

賀田～梶賀間 9往復/日

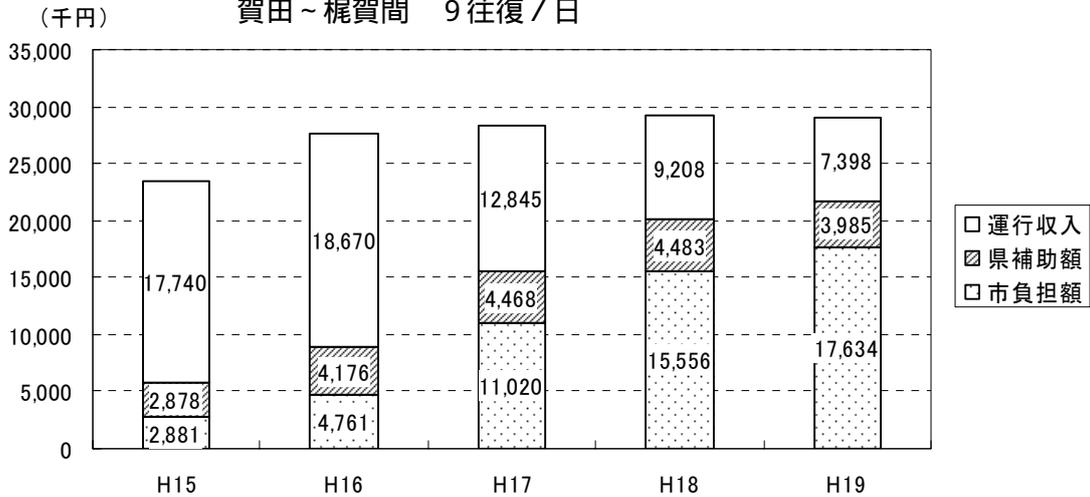


図1-3 輪内線における収支状況の推移

輪内線は15年4月1日から第3種路線から自主運行バスに変更されている。

自主運行バス

平成18年10月からふれあいバス八鬼山線の本格運行を開始した。運行事業者に対し運行収入から概算経費を差し引いた額を委託料とし、運行委託している。現在のところ地域住民の足として定着しつつある。

【運行区間】・・・三木浦～早田～九鬼～朝日町(尾鷲市街地)間 各3本/日

【1便平均乗車率(4月実績)】 (人/便)

	三木浦～尾鷲				尾鷲～三木浦			
	7:20	9:30	12:50	1日	8:30	11:50	16:00	1日
平日	14.9	16.2	7.71	12.9	1.48	18.8	12.2	10.8
土日祝日	6.44	15.6	7.22	9.74	1.11	11	9.44	7.19
月平均	12.4	16.0	7.57	12.0	1.37	16.5	11.4	9.74

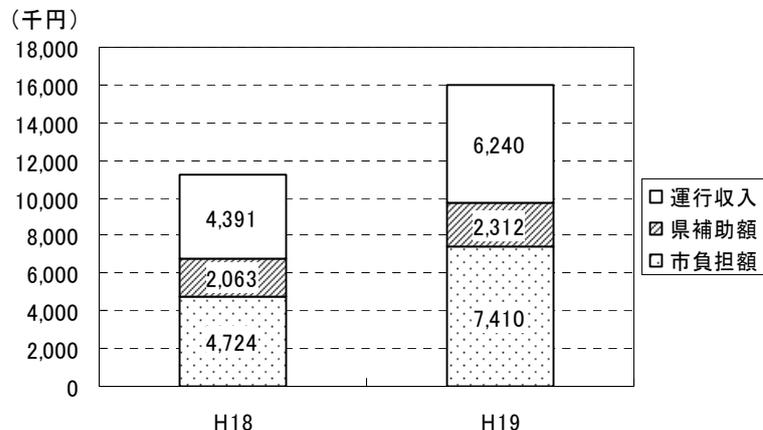


図1-4 ふれあいバス八鬼山線における収支状況の推移

各年の補助金の推移については、前年の10月から各年の9月までの数値を基に算出(自主運行バス等運行費補助金交付申請書の数値)

2.人口

平成19年10月1日現在の本市の人口は22,307人であり、近年減少傾向にあり、国勢調査結果による人口推計によると平成22年には2万人を下回ることが予想されている。

高齢化は徐々に進展しており、平成17年で31.1%、平成22年に37%となり、平成27年には40%を超えることが予想されている。一方、年少人口は平成17年11.6%、平成22年に10.1%、平成27年に9.5%と減少傾向が続くと予測されている。

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口	23,683	22,103	19,642	17,989
年少人口	3,131	2,569	1,988	1,712
老年人口	6,291	6,875	7,264	7,359

表2-1 人口推計値

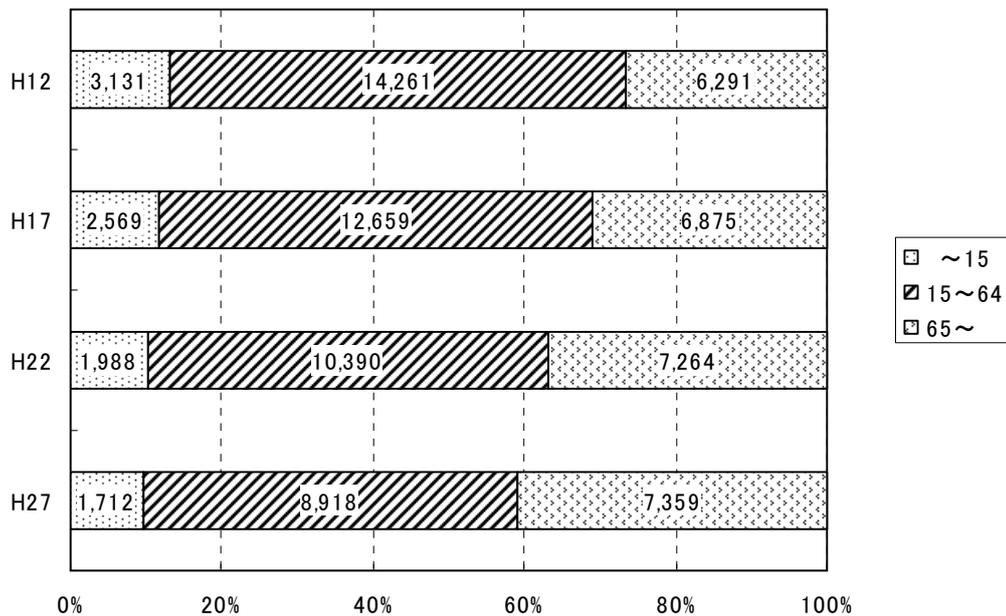


図2-2 区分別人口の推移

人口推計値データは、第5次総合計画後期基本計画より抜粋

3. 児童・生徒の通学手段について

過疎・少子化に伴う市内の小中学校の統廃合により、今まで徒歩で通うことのできた児童・生徒がバス等を利用して通学しなければならない状況が発生する。

現在、須賀利地区の小中学生は、スクールタクシーで通学。行野・早田地区の小中学生は、バス路線を利用した通学。三木浦・三木里地区の中学生及び古江・梶賀地区の小中学生は、スクールバスにて通学している。

	須賀利	行野	九鬼	早田	三木浦	三木里	古江	賀田	曾根	梶賀
0-4	1	1	2	3	13	6	7	13		6
5-9		1	6	2	16	16	12	17		6
10-14	4	3	6	2	27	25	11	29	6	5
15-19	2	4	17	4	34	14	9	30	13	7

表3 - 2 地区別年少人口

4. 道路の現況

市内の中心を通る国道42号、海側を通る国道311号が主な幹線道路であり、平成20年度に国道42号熊野尾鷲道路尾鷲南IC～三木里IC間が完成している。国道42号の尾鷲地区の4車線以外は、2車線で整備されている。ただし、各地区とも、幹線道路以外の道路を大型車が通行することは難しいと考えられる。

なお、近畿自動車道紀勢線大宮大台IC～紀伊長島IC間、新直轄方式で行われている紀伊長島IC～尾鷲北IC間、熊野尾鷲道路三木里IC～熊野市大泊IC間については、平成25年の式年遷宮に向けて整備が進められている。